

【政府への働きかけ】

日系企業と上海税関との対話(中国)

開催日: 令和3年9月30日

場 所: ジェトロ上海会議室

主催: 在上海日本国総領事館

参加企業: 上海日本商工クラブの会員企業

在上海総領事館

【背景】

- 上海市には世界第1位のコンテナ取扱量を誇る上海港と国内の貨物取扱量第1位の浦東国際空港があり、中国における貿易の窓口となっている。当地に進出している日系企業の大多数が上海市を通して貿易を行っており、通関手続き等税関関連業務については高い関心が今でも寄せられている。
- ビジネス環境の改善の一環として、令和元年11月に上海税関に対して上海税関と日系企業との間において意見交換メカニズムの設置について提案し、順次意見交換の場が設けられるに至った。
- 令和2年には2回(8月と9月)の意見交換を実施し、令和3年1月には特に企業からのニーズが高い危険化学品分野について意見交換の場が設けられた。上海税関からはコロナ禍の影響により対面による実施については困難であるとの連絡があったことから、オンラインで実施した。



【結果・評価】

- 第4回目となる今回の対話では、新規の議題と過去に既に取り上げた議題を合わせて、計15題について意見交換を実施。具体的には、①輸入手続きが明確に規定されていない貴金属リース貿易の手続き、②輸入品レーベル貼付場所の拡大、③危険化学品サンプリング検査にかかる必要日数期間の短縮などについて議論。
- 対話を重ねる毎に上海税関と日系企業との議論も噛み合ってきている。上海税関は税関総署といった中央部門ともすり合わせながら本件対話に参加しており、国全体の制度設計の見直し等についても提起することが可能。
- また、この機会に、当館に別途連絡のあった直近の通関トラブル(食品関係)の事例について提起することができ、税関担当者とのコミュニケーションを深める良い機会となった。



会議の様子